

特別養護老人ホームの公助・共助・自助・互助の力を 結びつける仕組みづくり

関連するSDGsの国際目標



人間看護学部 人間看護学科

教授 河野 益美 准教授 森本 安紀

研究分野 : 在宅看護学

特別養護老人ホームは、それぞれの施設に特徴があります。この個別性に応じたケアの質の向上を目指すために、蓄積された事故報告書のデータから、状況要因を明らかにし、早期発見と予防のための評価を行います。これをもとに、施設の事故対応システムの構築を行うことができます。このシステムに、生活している入居者の力も加えることを、新たに提案します。

■事故報告書の分析

施設の事故報告書の分析を行い「マップ」を作成するなど、見える化を行うことで、事故の認識を職員の間で共有しやすくなります。

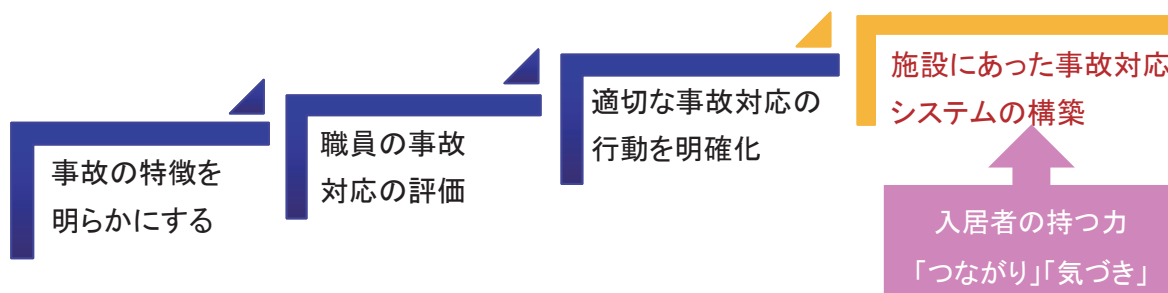
また、事故報告書の内容から、職種による特性や経験年数ごとの特徴というような、施設の事故の状況要因を明らかにします。



例) 転倒事故発生場所マップ

■職員の事故への対応の評価

マップや報告内容をもとに、発見時の状況について分析し、発生場所の特徴に合わせた早期発見と予防の評価を行います。その結果について施設スタッフと意見交換会を行うなど、リスクマネジメントの考え方について共有します。事故対応に必要な技術の評価することで、職員が適切な対応を行うために必要なファクターを見出すことができます。これに、入居者の持つ「気にかける力」や「発見したら知らせる力」なども含めて考えます。



■今後の課題：施設の特徴にあわせた事故対応システムの構築

施設の持つ個別性に応じた事故対応システムを構築することで、職員は役割に応じた安心・安全なケアの提供が行えます。その中で、看護職は医療的知識や経験を活かして指導的役割を担い、より施設の持つ個性や職員の特性を活かした関わりを行う必要があります。

このような環境が、職員の離職を防ぎ、継続して働きやすい職場をつくりあげることにつながります。さらに、安心・安全なケアが継続して行われることにより、入居者の生活の質を向上することができます。入居者の持つ力も活かして公助・共助・自助・互助の力を結びつける仕組みづくりを目指します。

